十四日	同	同	四九名
十五日	婦人問題	同 岡 成志君	同 三八名
十七日	勞働組合論	同 松澤兼人君	同 三五名
十八日	國際勞働運働	同 米窪滿亮君	同 六一名
十九日	勞働組合論	同 松澤兼人君	同 五八名
廿一日	海上勞働問題	同 西巻敏雄君	同 七七名
閉會の辭		米窪滿亮君	

政治部報告

我國の政治象面に於て從來とても金融資本と政治との結託は極めて密なるものがあつたが、全經濟象面に對する支配權を確保せざる金融資本と政治との結託は、單なる抱合であつて、嚴格な意味に於て決して金融寡頭政治の確立と見るべきでない。しかるに、我國の金融資本は歐洲大戰後數次の恐慌により多少の打撃を被りつゝも、その都度、中小資本をその支配下に統制して全經濟機構に於て完全なる支配權を掌握した。かゝる經濟の獨占、集中過程の必然的結果として、こゝに金融寡頭政治の確立を見るに至つた。

しかして金融寡頭政治最初の龍兒として生れ出たものは濱口民政黨内閣である。しかしながら金融資本の意圖を忠實に反映する民政黨内閣の無謀なる舊平價の解禁と、資本家的産業合理化の强行は無産階級の生活苦を層一層加重し失業比率を愈々增大する以外の何物でもなかつた。

更に民政黨内閣が閣僚間の醜悪なる陰謀的政權爭奪によつて、もろくも倒潰するや其後繼者として金融資本の推挽によつて組閣せる政友會内閣も亦、金融寡頭政治遂行の爲の勇敢なる騎手たるとに於て民政黨内閣と全く其軌を一にするものである。

從つて本組合政治部は本年度に於ても亦機會ある毎に金融寡頭政治の本質を曝露しつゝ、全無産階級の熱烈なる要求たる自主的勞働組合法、團體協約法、船員保險法等の社會立法の實現の爲め、日本勞働倶樂部を通じて猛運動を展開すると共に、更に海上大衆の特殊的希求たる失業海員救濟資金の獲得乃至海員ホームの建設に向つて最大の努力を續けつゝ今日に至つた。

しかしながら無産階級陣營の全國的結成の微力なることに原因して、全無産階級の總體的希望の實現の爲の運動は未だ効果を收めることが出來なかつたが、部分的には失業海員救濟資金の獲得乃至海員ホーム建設等に於て所期の目的の大半を達成する事を得た。

組合は昭和五年度に於て組合基金中より六萬圓を支出し、同時に一般組合員より失業救濟資金の醵出を得て、組合獨自の力を以つて神戸、大阪、横濱、戸畑、小樽、函館、名古屋の全國七ケ所の本支部所在地に組合授産所を經營して失業海員の救濟に努力した。

然るに海運恐慌の深刻化するにつれて失業海員數は益々增加し組合のみの負擔による救濟資金を以つてしては到底全失業海員を救濟することの困難なる事情に立至つたので關係政府當局に對して國庫よりの失業海員救濟資金補助を實現せしむべく眞摯なる運動をつゞけた結果、本年度に於ては高級及普通船員の失業救濟の爲めの國庫補助金を下附されるに至つた。